

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもの特性と成長・発達	1	15 時間 (8 回)	2 年次・前期	白樫 亜由美	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し（専門領域：小児科において3年以上の業務経験も含む）専任教員として必要な研修で小児看護学の領域について教授方法を修了した者が、子供の成長発達について教授する。また保育士が、あそびが乳幼児期の成長発達に与える影響について教授する。				
学習目標	1. 子どもの権利、小児看護の対象として子どもを理解できる 2. 子どもを取り巻く環境、その家族について理解できる 3. 子どもの成長・発達の特徴を日常生活行動と結び付けて理解できる 4. 子どもの各発達段階の栄養の特徴について理解できる 5. 小児看護の特徴を必要な成長発達理論の基礎を理解し、看護を考えることができる				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 小児看護の特徴と理念 1) 子どもの理解 2) 子どもを取り巻く環境 3) 小児看護の変遷 4) 小児看護の問題点と課題	講義	5 回 6 回	1. 家族の特徴とアセスメント 2. 子どもと家族を取り巻く社会環境 1) 子どもの虐待 2) 感染症対策 3) 学校保健 4) 予防接種 5) 子どもと家族の諸統計	講義 講義
2 回	2. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3. 成長・発達に影響する因子 4. 小児看護で用いられる理論の概要 (ピアジェ、エリクソン)	講義	7 回	6) 母子保健 1. 乳児期の成長発達について 2. 幼児期の成長発達について 3. 子どもの気持ちになって一緒に遊ぼう	講義 (保育士)
3 回	1) 成長・発達の評価	講義	8 回	まとめ・終講試験	試験
4 回	1. 発達課題に応じた日常生活への援助 1) 乳幼児の生活と援助 2) 幼児期の生活と援助 3) 学童期の生活と援助 4) 思春期の生活と援助	講義			
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児看護学 (医学書院)		

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもに起こりうる 主な病気と看護	1	30 時間 (15 回)	2 年次・前期	市川 澄子	
実践的教育内容	市立病院で15年～30年以上の勤務経験のある小児科医により、臨床実習で経験する疾患及び国家試験対策も考慮した、代表疾患についての病態生理・診断治療を教授する。				
学習 目標	1. 子どもに特徴的な代表疾患の病態、症状、診断、治療について理解する (内科・外科疾患)				
D P と の 関 連	<p>■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</p> <p>■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</p> <p>□3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</p> <p>■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</p> <p>■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</p> <p>□6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</p> <p>□7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</p>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	講義	9 回	9. 消化器疾患 ・急性胃腸炎、急性虫垂炎	講義
2 回	2. 新生児看護 ・新生児の疾患、低出生体重児、成熟異常	講義	10 回	10. 血液・造血器疾患 ・貧血、出血性疾患	講義
3 回	3. 代謝性疾患 ・先天性代謝異常症 ・I 型糖尿病	講義	11 回	11. 悪性新生物の診断治療 ・急性リンパ性白血病 ・急性骨髄性白血病	講義
4 回	4. 内分泌疾患 ・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺、副腎疾患	講義	12 回	12. 腎・泌尿器 ・ネフローゼ、慢性腎炎 ・急性糸球体腎炎	講義
5 回	5. 免疫・アレルギー	講義	13 回	13. 神経疾患 ・けいれん性疾患、脳性麻痺	講義
6 回	6. 感染症 ・ウイルス、細菌、真菌	講義	14 回	14. 運動器疾患 ・先天性股関節脱臼 ・先天性内反足	講義
7 回	7. 呼吸器疾患 ・急性咽頭炎、急性気管支炎、マイコプラズマ肺炎	講義	15 回	15. 感覚器疾患 16. 精神疾患 ・発達障害 17. 事故・外傷 終講試験	講義
8 回	8. 循環器疾患 ・先天性心疾患、川崎病、後天性の心疾患	講義			
評価 方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護概論 (医学書院)		

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもへの看護技術	1	30 時間 (15 回)	2 年次・後期	白樫 亜由美	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し（専門領域：小児科において3年以上の業務経験も含む）専任教員として必要な研修で小児看護学の領域について教授方法を修了した者が、子どもの健康状態についての観察方法健康障害を持つ子どもとその家族への具体的対応、症状に応じた看護について教授する。				
学習目標	1. 子どもを一人の人と捉え、健康障害および診断・治療に関する基礎的知識を理解する 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する 3. 小児看護に必要な看護技術を習得する 4. 身体機能の未熟性の伴う症状・状態や疾患管理、治療過程への影響を理解する				
DPとの関連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. アセスメントに必要な技術 コミュニケーション ・発達段階、家族へのコミュニケーションの方法	講義 GW	8 回	・入院中の子どもと家族への看護 ・外来における子どもと家族への看護	講義・ GW
2 回	2. バイタルサインと測定	講義・演習	9 回	6. 日常生活制限を必要とする子どもと家族への看護	講義・ GW
3 回	・体温、呼吸、血圧、脈拍	講義・演習	10 回	・身体的、心理的影響	講義・ GW
4 回	測定、身体計測、身長、体重、頭囲計測	講義・演習	11 回	・活動制限、食事制限	講義・ 演習
5 回	3. 身体的アセスメント ・一般状態、呼吸 ・循環器系、腹部	講義・演習	12 回	7. 急性期にある子どもと家族への看護	講義・ 演習
6 回	4. 健康障害を持つ子どもと家族への看護 ・健康障害を持つ子どもの理解、家族のストレス	講義・演習	13 回	8. 呼吸困難時のアセスメント	講義・ 演習
7 回	・家族を支える看護	講義・演習	14 回	9. 脱水時（嘔吐、下痢）のアセスメント	講義・ 演習
	5. 子どもに望ましい環境づくり ・治療、感染防止 ・安全、安楽の視点	講義・GW	15 回	10. 痙攣時、貧血時のアセスメントと看護	講義・ 演習
				11. 痛みのある子どもと家族の看護 終講試験	講義・ 試験
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児看護学 (医学書院)		

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもと親への看護	1	15 時間 (8 回) ① 10 時間 (5 回) ② 5 時間 (3 回)	2 年次・後期	① 福元 由香 ② 白樫 亜由美	
実践的教育内容	市立病院の小児科病棟で20年以上の勤務経験のある看護師が、臨床実習で経験する、疾患及び国家試験も考慮した代表疾患患児の看護について教授する。 また小児看護学領域担当教員が領域のまとめとしてペーパーペイシエントによる看護過程展開技術を教授する。				
学習目標	1. 子どもの成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する 2. 疾患に特有の治療から心身への影響と経過別の看護を理解する 3. 治療・長期療養が必要となる子どもの発達・セルフケアを促す看護を理解する 4. 事例をもとに健康障害をもつ子どもの看護過程を展開する				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (福元)	1. 治療処置・検査をうける子どもと家族への看護	講義・GW		5) 血液・造血器疾患 6) 神経疾患	
2 回 (福元)	・薬物療法、検査の介助		6 回 (白樫)	5. 気管支喘息患児の看護過程	演習
3 回 (福元)	プレパレーション、抑制、呼吸管理、救命救急	講義	7 回 (白樫)	1) 情報とアセスメントの視点	演習
4 回 (福元)	2. 周手術期の子どもと家族の看護	講義	8 回 (白樫)	2) 看護問題・看護目標・計画・実践・評価	
5 回 (福元)	3. 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義・DVD		まとめ・終講試験	試験
	・慢性期、終末期				
	4. 疾患別にみた子どもと家族の看護	講義			
	1) 呼吸器疾患				
	2) アレルギー疾患				
	3) I 型糖尿病				
	4) 腎臓疾患				
評価方法	筆記試験 100 点 ( ① 70 点 ② 30 点 )	教科書		系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 (医学書院)	